

パッパカまきば

活動場所：1年1組教室、原っぱ
 6月4日（火）13：55：～15：00
 提案者：高橋 聡将

1 子どもの思いの連続

4月、ミニチュアホースとの生活への思いを膨らませた子どもは、原っぱに柵や小屋をつくりたいと願った。原っぱの自分のお気に入りの場所で遊んだり、様々な場所をめぐったりする中で、ミニチュアホースが気に入ってくれるところを探し、そこに柵を立てることにした。同時に、ミニチュアホースを思う子どもは、木馬をつくり、ミニチュアホースへの思いを膨らませた。

子どもは、友だちと相談しながら、柵の広さを決めたり、杭を地面に打ち込んだりした。

5月9日、ミニチュアホースが仲間入りした。子どもは、ミニチュアホースと一緒に原っぱをめぐったり、立てた柵の中で遊んだりしながら、ミニチュアホースと共に過ごすことを楽しんだ。しかし、木の柵は、ミニチュアホースに壊されてしまった。そこで、子どもは、「もっと丈夫な柵をつくり、安全に過ごせるようにしたい」と願い、単管を使った「柵2号」をつくった。さらに子どもは、「お馬さんと一緒に原っぱを散歩したい」と願い、一緒に散歩することを楽しんだ。しかし、ミニチュアホースが走り出すようになってきた。子どもは、「走り回る場所をつくって、走ってほしい」と願い、単管で、柵3号となる「運動場」をつくり始めた。子どもは、ミニチュアホースとのかかわりから、場をひろげ始めている。

2 本時のねらい（本時における自分をつくり未来を拓く子どもの姿）

ミニチュアホースとかかわり、楽しく遊ぶ場をつくり変えることを通して、ミニチュアホースとのかかわりをひろげたり、ミニチュアホースや友だちと共に楽しめる場について考えたりしながら、自分のアイデアを生かし、自分の生活の場をつくり変える喜びを味わう。

3 本時の構想

○ まきばのつくりを考え、つくり変える

子どもは、ミニチュアホースと楽しめる場にしたいと願いながら、柵をつくっている。ミニチュアホースとかかわる中で、子どもは、自分の楽しみだけでなく、ミニチュアホースの楽しみも見つけている。子どもは、ミニチュアホースの走る場を願い、走って遊ぶことができる形や広さのアイデアを出し合い、友だちと共にミニチュアホースとのかかわりや柵の外枠、柵の中の遊び場をつくり変えながら、学級で出したアイデアでミニチュアホースとのかかわりやまきばがつくり変わる喜びを味わうのである。

4 本時の展開

83・84M/全437M (65分)

時間	番号；子どもの活動 ・；子どもの姿	○；教師の手立て
10	<p>1 今のまきばについて話す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おにごっこができる広い場がほしいと主張する。 ・広くすればつばさくんが自由に遊べると話す。 ・木のところまで広げれば、日陰ができると提案する。 ・走りやすいように運動場は円形がよいと提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現在の場の写真を提示する。 ○もっとひろげていきたいことについての主張を聞き、様々なアイデアを募る。 ○子どもの話を具体的にイメージできるように話をまとめたり、図を板書したりする。
35	<p>2 まきばをよりよくつくり変える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つばさくんと散歩する。 ・つばさくんとおにごっこをする。 ・ブラッシングする。 ・運動場をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どものアイデアを聞きながら、現場でまきばをよりよくつくり変える。 ○教師も子どもと共に活動し、まきばをつくり変える。
20	<p>3 本時の活動を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動しながら感じたことや考えたことを話す。 ・シートに活動の振り返りを書く。 ・今後やってみたいことを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○伝えたい子どもの姿を大切にしながら、子どものミニチュアホースや場、仲間への思いを全体に伝える。 ○子どもの姿から今後の活動を思い描く。

